

お食い初め儀式手順



お食い初め

お子様が誕生して100日から120日に行く儀式です。お子様の健やかな成長と食べ物に一生困らないよう、願いを込めて食べさせる真似をします。諸説色々ございますが、以下の手順を参考にしてください。

準備

食べさせ役は、長寿にあやかるという意味で、身内の最年長の方が通例ですが、ご両親でも結構です。お子様が男の子なら男性、女の子なら女性が膝の上に乗せて儀式を進めてください。

以下の順番通りの食べ物をお箸でお子様の口にちよんちよんつけてください。なお、食べさせることはせず真似だけをしてください。また、アレルギーのあるお子様は口につけず真似だけしてください。

儀式手順

赤飯↓吸物↓赤飯↓鯛↓赤飯↓吸物↓赤飯↓煮物(海老)↓赤飯↓
吸物↓赤飯↓香の物(梅干し)↓赤飯↓吸物↓赤飯↓鮑※↓赤飯↓吸物

※歯固め石の儀式は鮑に触れた箸先をお子様の歯茎にやさしくちよんちよんと当て、「歯が丈夫になりますように」と祈願します。

食材意味

赤飯：赤い米は太陽、豆は星を表し、多くの方に巡り合えますように
鯛：大海を悠々と泳ぐ鯛のように成長し賢く育ちますように
鮑：(歯固め石として)歯が丈夫になりますように
蛤：良縁に恵まれますように
梅干し：しわしわになるまで長生きできますように
里芋：子宝に恵まれますように
筍：まっすぐにすくすくと育ちますように
海老：腰が曲がるまで長生きできますように

お子様の誕生から今日までご成長おめでとございます。
健やかな成長をお祈り申し上げます。

魚伊三

謹製